

書籍、雑誌の刊行にかかわる出版事業は、情報産業の一翼を担っているが、それを支える製作過程における版面の製作、印刷、製本などの生産工程が重要な役割を果たし、これらの工程におけるデータ化、自動化などの技術的革新が今日的な課題になっている。また、資材としての印刷用紙は、量および価格面での安定供給が長年の課題となっており、書籍、雑誌を文化財として保存するための中性紙への転換や地球環境への対応からリサイクル利用に配慮した造本および再生紙の使用などにみられるように、環境問題への的確な対応が求められている。

これらの問題は、情報技術革新が急速に進むなかで抜本的な変化や見直しが進むものとみられるが、出版事業の基本が紙・印刷媒体におかれている以上、本質的に変わることはない。

本章では、出版社が書籍、雑誌を製作するにあたって、製紙会社、印刷会社、製本会社など関連業界との関係における製作上の課題をとりあげ、さらには、著作物などのコンテンツ提供のあり方、データの保管についても今後の方向をさぐってみることとする。

A | 用紙、資材の安定供給

A-1 用紙の安定供給と価格

❖戦後の用紙不足対策

日本の出版界は第二次世界大戦の戦火が拡大するなかで、政府から国家統制体制への参画を求められ、諸物資の統制、なかんづく印刷用紙の統制割り当てを強いられた。「日本出版文化協会」¹(1943年3月11日に日本出版会に改組)は主としてその業務にあたっていたが、終戦を契機に解散した。1945年(昭和20)10月に設立された業界の